

重点3 英語活動の推進

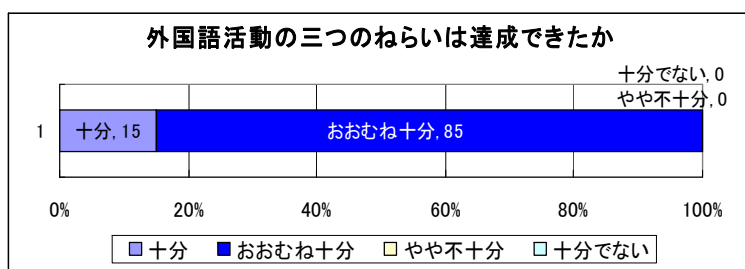
小学校における英語活動

ねらい

- ・ 小学校段階から世界に目を向け、国際感覚を身につけた豊かな心を持つ子どもを育成するために、国際理解教育の一環として、英語に親しむことを重視した活動を行っています。
- ・ 「聞く」「話す」ことを中心とした、体験的な英語活動（外国語活動）をとおして、英語を使って表現しようとする意欲やコミュニケーション能力をはぐくんでいます。

現状と課題

○ 外国語活動でみられる子どもたちの様子



外国語活動の3つのねらい

- ・ 言語や文化について理解
- ・ コミュニケーションへの積極性
- ・ 音声や表現に慣れ親しむ

外国語活動についてのアンケートより

- ・ これまでの英語活動の積み上げもあり、簡単な単語や会話には慣れ、自信を持って発言したり、授業後に英語を使って指導者や友だちに話しかけたりする子どもの姿が報告されています。
- ・ 外国語活動を楽しみにしている子どもは多く、英語をよく聴き一生懸命理解しようとする姿や、難しい言葉にも挑戦する姿が見られます。このような姿から、外国語活動のねらいはおおむね達成できていると考えられます。
- ・ 指導者が表情豊かにジェスチャーを交えて話したり、外国の生活や文化等に慣れ親しんだりすることが、子どもたちの国際理解教育を深めることに重要な役割を持っています。
- ・ コミュニケーション活動に積極的に取り組む素地が作られるような授業内容を研究していく必要があります。

今後の方向性

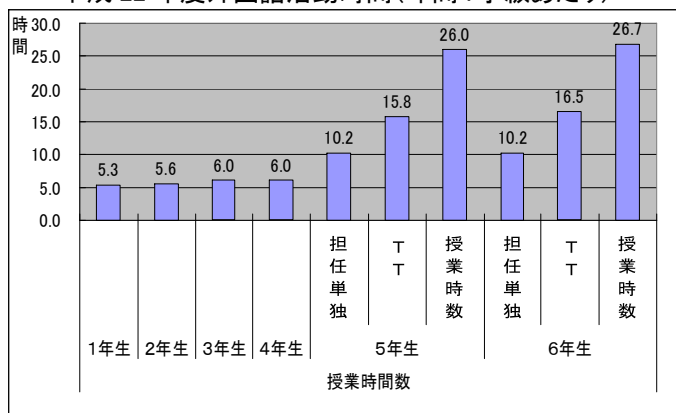
- 新しい学習指導要領の施行により始まる小学5・6年生での外国語活動（年間35時間）の活動内容をさらに充実させるため、教員の研修の充実および教材等の支援を進めていきます。
- 子どもたちにとって英語を話すモデルとなる英語指導員との連携による指導の充実を一層図ります。
- 子どもたちが英語活動に自信を持って取り組み、積極的にコミュニケーションを図るようになることをめざし、「活動の振り返り」や指導者の活動に対する評価を改善に生かすなど、効果的な指導を行うための研究を進めます。

主な取組状況

○ 英語指導員の派遣と活用

- ・ 市内すべての小学校において、1年生から4年生で5時間程度、5・6年生で15時間程度英語指導員を派遣しました。小学校5・6年生では担任単独の授業とあわせて年間約25時間の英語活動を行いました。

平成22年度外国語活動時間(年間1学級あたり)



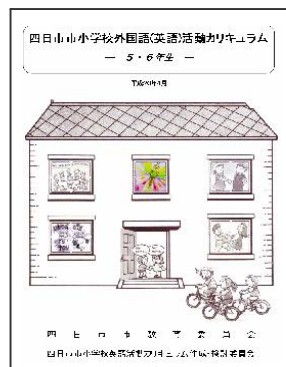
四日市市在籍の英語指導員 (YEF) 11名
派遣業者からの指導員 (HEF) 7名

- ・ 各小学校における英語活動は、1～4年生では学校裁量の時間、5・6年生は外国語活動の時間に英語活動を行っています。
- ・ 一緒に給食を食べたり、特別活動や休み時間とともに活動したりするなど、子どもたちと英語指導員がかかわる機会を設けています。

○ 四日市市小学校外国語(英語)活動カリキュラム(以下:カリキュラム)の活用

四日市市では、英語活動のねらいに沿った独自のカリキュラムを作成し活用しています。

- ・ 楽しみながらコミュニケーション活動を体験できるような構成
- ・ 日本語、英語で記述し、担任と英語指導員が活動内容について共通理解を図ることができるよう構成



文部科学省が配布する「英語ノート」と、四日市市「カリキュラム」の2つの教材が授業で効果的に活用されるように、四日市市外国語活動カリキュラム検討委員会で検討を行いました。担任と英語指導員の連携のもと、子どもたちの実態に応じて2つの教材を効果的に活用して外国語活動を進めています。

○ 小学校外国語活動研修会の実施

英語ノートや「カリキュラム」を活用した実際のチームティーチングでの英語活動を体験する研修会を2回、担任が単独で英語活動を進めていくために、プロジェクト型外国語活動の研修会を1回実施しました。全小学校から各回1名以上の参加があり、小学校教員の外国語指導力を高めることができました。



<参加者の感想>

- ・ フラッシュカードの効果的な活用の仕方、テンポよく活動を進める大切さがわかった。
- ・ 子ども同士が進んでコミュニケーションが取れる活動を取り入れていこうと思う。
- ・ 活動の中での、T1 T2のかかわり方がわかった。
- ・ プロジェクト型の活動を取り入れていきたい。

※ プロジェクト型外国語活動: 課題について、自らゴールを決め、ゴールに向かって主体的・創造的に学ぶ外国語活動。英語の絵本を使うもの、日本文化や学校の紹介をするもの、買い物活動等相互交流型がある。